

新冠町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

概要

- ・新冠町の高齢化率は、全国全道の平均を大きく上回っており、自家用車での移動が難しい高齢者にとっては、移動の足を確保することが必要である。
- ・町内の路線バスは乗車率が低く、新冠町が民間バス事業者の欠損額(赤字部分)を補填し、町民の足を確保している状況であった。
- ・このことから、効率的で利便性の高い公共交通の確立を目指し、「新冠町地域公共交通総合連携計画」を平成21年に策定した。この計画に基づき、平成22年度には道南バス厚賀太陽線沿線地域(フィーダー系統)を対象に予約運行方式による実証運行を実施し、翌平成23年度から本格運行を開始したところである。
- ・予約運行方式に変更したことにより、民間バス運行時と比べ、年間利用者数が268%向上し、経費は66%減少した。

新冠町生活交通ネットワーク計画の目標・効果

- 【目標1】高齢者に配慮した利用しやすい交通体系の整備
今後の課題である人口減少に対し利用者数の維持
(利用者数1,884名 運行日平均6.4名 (平成23年度実績))
- 【目標2】効率的で持続可能な運行体系の確立
予約運行に係わる経常収支率3.78%の改善(平成23年度実績)

平成25年度事業概要

路線名	運行路線	運行便数	運賃	備考
厚賀太陽線	厚賀駅前⇄旧三和小学校前	厚賀駅前着1便 厚賀駅前発2便※ ※H25.4.1から2便へ変更	A区域300円/回 B区域500円/回	予約運行方式

地域公共交通の現況

- ・新冠町町営バス
[西新冠地区厚賀太陽線(日高町共同運行)]
- ・道南バス(株)[日高沿岸線、泉線]
- ・スクールバス(町内7路線)
- ・健康推進バス
- ・JR日高線[新冠駅、節婦駅]

新冠町地域公共交通活性化協議会開催状況

- 平成24年8月23日 第1回協議会を開催
 - ・H24、H25 生活交通ネットワーク計画の承認について 他
 - 平成24年11月12日 第2回協議会を開催
 - ・H24、H25 生活交通ネットワーク計画の承認報告について 他
 - 平成25年3月18日 第3回協議会を開催
 - ・H25生活ネットワーク計画の変更承認 他
- ※新冠町地域公共交通活性化協議会にうち確保維持改善事業に係るものを記載

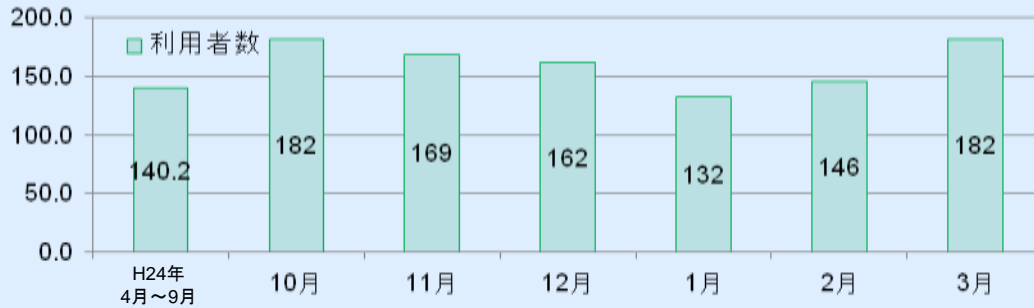
平成25年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

- ・保健福祉課にて高齢者訪問の際には当事業の紹介、PRを実施。
- ・第2便は夏、冬時間と季節変動していたが、道南バスへダイヤ変更の要請を行い冬時間を通年化し、夏時間とほぼ同時刻で通年走る日高沿岸線への接続を可能とするため増便し、3便体制へと変更を行う。
(平成25年4月1日より)

3) 利用実績

- ・各月ごとの利用者数は1月が少ない以外は、4月～9月平均より増加。
(夏時間から冬時間への変動の影響が考えられる)



4) 収入実績

- ・対象期間における運賃収入は月平均で5,800円

厚賀太陽線	参考	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
	H24.4月～9月平均								
	12,067	5,700	6,400	6,800	5,600	4,600	5,800	34,900	5,817

2) 運行ルート



5) 事業実施の適切性

- ・計画どおり事業は適切に実施された。

6) 目標・効果達成状況

- ・目標の6.4人/運行日に対して、同程度(6.7人)の利用者数で推移している。
- ・目標の経常収支率3.78%に対しては、1.81%に留まっている。(現金利用者の社会減(転出等)が要因)
- ・利用登録者全体の80%が高齢者であり、原則自宅前までの送迎体制であることから当路線は高齢者の移動の足として確立しつつある。

7) 事業の今後の改善点

- ・継続的なニーズ把握により、利用者の利便性の向上を図る。
- ・沿線地域住民だけでなく、町内外へ広く継続的な広報、周知を行い利用者の拡大を図る。

8) 地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

自己評価の通り適切に事業が実施されている。
現時点では、利用者数については昨年度の目標を上回っているものの、継続的な運行に不可欠の経常収支率については目標を達成していない。4月からの運行時間見直しや継続的な周知による更なる利用者の増加と経費削減や広告収入の獲得等に努めることで、経常収支率の改善による継続的な運行を期待する。